



青森ライフイノベーション戦略 アクションプラン [2021-2025]

AOMORI Life Innovation Strategy Action Plan [2021-2025]

Aomori
Prefectural
Government



お問い合わせ先

青森県 商工労働部 新産業創造課 ライフイノベーション推進グループ

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1-1

TEL.017-734-9420

E-mail:sozoka@pref.aomori.lg.jp

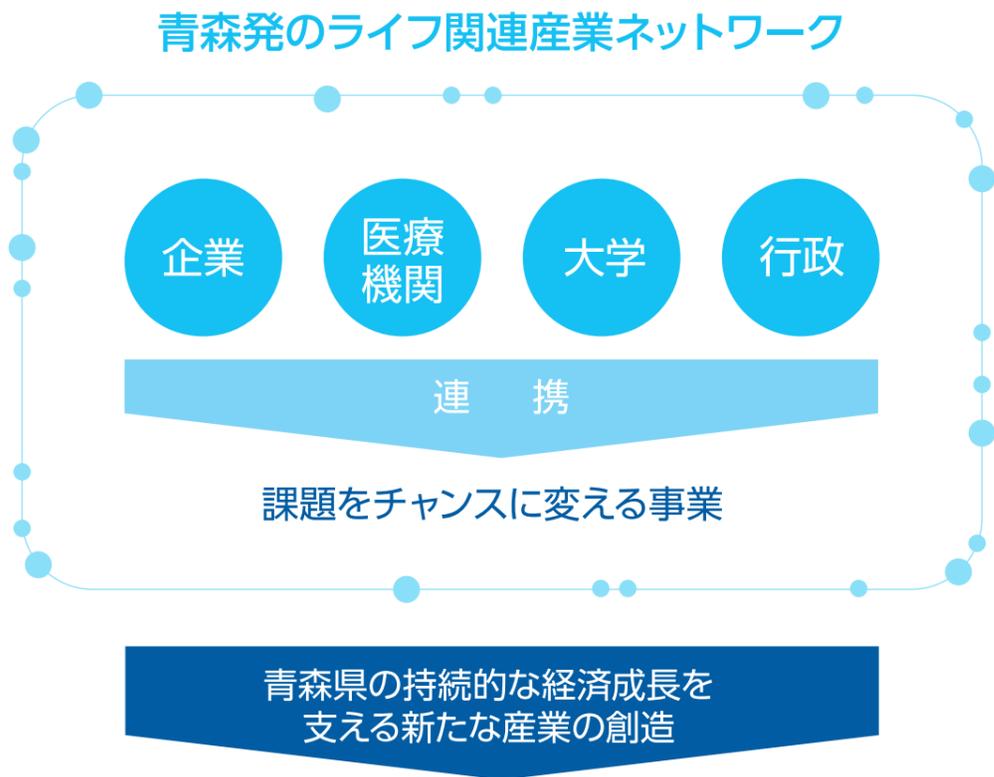
青森県

令和3年3月

Action Plan **I** 青森ライフイノベーション戦略
アクションプランの総合的目標 

- 期 間 令和3(2021)年度～令和7(2025)年度(5年間)
- 目 標 年 度 令和7(2025)年度
- 総合的目標 ライフイノベーションによる健康で幸せな生活の実現

ライフ関連産業の企業、医療機関、大学、行政が密接に連携することで、課題をチャンスに変える事業を生み出し、青森県の持続的な経済成長を支える新たな産業を創造することにより、青森県民の健康で幸せな生活が実現し、生活の質が向上することを総合的な目標とする。



青森県民の健康で幸せな生活を実現、生活の質を向上

Action Plan **II** 青森ライフイノベーション戦略
アクションプランの方向性 

基本的目標

目標水準

- 1**
QOL
向上

 - 青森発のライフ関連産業ネットワークの形成により地域の課題解決が支援され、青森県におけるQOL(生活の質)の向上が図られている。

下記目標を通じて、県民のQOL(生活の質)の向上に向けた施策を展開する。
- 2**
新たな
産業化

 - ライフ関連産業が青森県の新たな産業として成長の柱になっており、雇創が創出されている。

全産業に占めるライフ関連産業のウェイトを高め、新規雇用創出にも貢献する。特に、若者の良質な雇創の維持・創出と地域への定着を重視する。
- 3**
新規ビジネス
創出

 - ライフ関連産業のクロス領域において革新的な製品・サービスを提供する新規ビジネスが創出されている。

2025年までに第二創業や事業転換も含め、ライフ関連産業参入に意欲を持つ県内企業を400社(医福工連携分野126社、ヘルスケアサービス分野47社、モノ・コト健康美容産業分野227社)まで増やし、県内企業・地域経済への波及効果の創出を目指す。(2020年度見込み283社)
- 4**
ブランド
確立

 - 「実証(テスト)のための最適地」など、青森県のライフ分野におけるブランドイメージが確立・普及し、他産業の企業や人材をひきつける求心力を持っている。

2025年までにライフ関連産業における県外企業との連携数を200件とする。(2020年度見込み124件)

Action Plan **III** 青森ライフイノベーション戦略
アクションプランの重点分野

重点分野別の方向性(取組方針)

基本方針 ～ライフスタイルの革新をビジネスイノベーションで実現～

ポストコロナ時代において、県民が、医療・福祉、食、美容、住宅、心身の癒しなど、人生の様々な場面で、健康的で心豊かに年を重ねていくためのライフスタイルの革新をビジネスイノベーションによって実現する。

1 医福工連携分野 ～医療・福祉現場とものづくり企業が連携した製品開発の促進～

新型コロナウイルス感染症対策や「2025年問題」によって重要性が高まる医療・福祉現場の生産性・安全性の向上等に資する製品開発を促進する。

2 ヘルスケアサービス分野 ～健康寿命の延伸に繋がるサービスの創出～

弘前大学COI※1との連携を強化するほか、高齢者のQOL向上に資する新たなヘルスケアサービス、農・食※2と連動した健康寿命延伸サービス等の創出を図る。

※1 弘前大学COIとは、弘前大学が実施している国家的プロジェクト「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」のこと。 ※2 農・食とは、農業と食品産業のこと。

3 モノ・コト健康美容産業分野 ～“商品”に“体験”をプラスした健康美容産業の振興～

プロテオグリカン「あおりPG」のブランド化と販路拡大支援により、県内企業の一層の外貨獲得を推進する。また、化粧品の県内製造を推進するとともに、青森りんごの機能性を生かした新市場育成を進める。



※ライフ関連産業のDX(デジタルトランスフォーメーション)促進
デジタル技術による変革を通じて、ライフ分野の生産性向上・付加価値向上を促進する事業を展開

Priority Areas

1

医福工連携分野

医療・福祉現場とものづくり企業が連携した製品開発の促進



これまでの成果

- 製品開発・販路開拓事例の顕在化
 - ・県主催勉強会による製品開発
 - ・県補助金等を活用した製品開発
- 臨床工学技士会、病院等と連携し、医工連携の体制を構築
 - ・相談窓口となる「あおり医工連携サポーター」を育成
 - ・臨床工学技士会HP内にニーズ登録システムを構築



医療従事者が企業に直接、現場の困りごとやニーズを説明する勉強会を毎年開催

課題

- 「コメディカル」※3視点でのニーズへの対応
- 介護現場における負担の軽減
- 感染症対策と産業振興の両立

※3 コメディカルとは、医師以外の医療従事者のこと(「チーム医療の推進に関する検討会」報告書(2010年3月 厚生労働省))

課題を解決・支援する産業創出への取組

新型コロナウイルス感染症対策や「2025年問題」によって重要性が高まる医療・福祉現場の生産性・安全性の向上等に資する製品開発を促進する。

- 医福工連携コーディネート推進
 - ・医福工連携コーディネーターの設置
 - ・コメディカルとのマッチングの推進
- 医福工連携製品開発支援
 - ・介護分野製品開発専門家の派遣
 - ・首都圏医療機器メーカー等とのマッチングの促進
 - ・IoT技術を活用した日常生活動作向上製品の開発支援
 - ・医福工連携製品の開発支援

Priority Areas

2

ヘルスケアサービス分野

健康寿命の延伸に繋がるサービスの創出



これまでの成果

- 弘前大学COI研究成果の社会実装
 - ・COI参画企業と県内企業の連携による研究成果の社会実装に向けた実証を実施
- 医療・介護関連システムの開発支援
- 県産品を活用した健康志向食品の開発支援
 - ・健康志向食品(あおもりヘルシーライフフード)の開発支援
- 地域未来投資促進法の活用



弘前大学COIには、約70の団体(県内企業や首都圏の大手企業、大学、研究機関等)が参画し、生活習慣病などの疾患の予兆・予防法について研究している。また、COIに参画していない県内企業との連携も積極的に実施しており、研究成果を活用した商品・サービスの開発・実証及びビジネス化をともに進めている。

課題

- 弘前大学COI参画企業との連携による更なるヘルスケアサービス創出支援
- 高齢者や家族の豊富なニーズを踏まえた(公的保険外)ヘルスケアサービスの創出
- 県内食品産業における健康食品づくりの活性化

課題を解決・支援する産業創出への取組

弘前大学COIとの連携を強化するほか、高齢者のQOL向上に資する新たなヘルスケアサービス、農・食と連動した健康寿命延伸サービス等の創出を図る。

- 弘前大学COI参画企業と県内企業の連携促進
- QOL向上に向けたヘルスケアサービスの創出支援
- 機能性表示食品の開発推進 ● ヘルスケアサービスの創出促進

Priority Areas

3

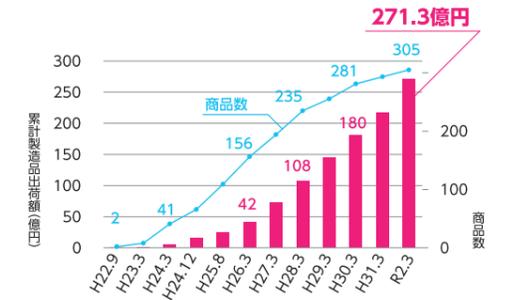
モノ・コト健康美容産業分野

“商品”に“体験”をプラスした健康美容産業の振興



これまでの成果

- プロテオグリカン「あおもりPG」産業の育成
 - ・県内42社、県外30社が商品を開発。累計製造品出荷額は約271億円(R2.3現在)に到達
- 新たなネットワークの確立
 - ・産学官金の連携によるプロテオグリカン産業の振興
- 県内企業の新商品開発の推進
- プロテオグリカン「あおもりPG」海外販路開拓の始動
 - ・海外展開に係る戦略策定、台湾等への販路開拓



プロテオグリカン商品数・累計製造品出荷額
※(一社)あおもりPG推進協議会加入企業の製品が対象



「あおもりPG」は、国立大学法人弘前大学の研究によって、世界初の抽出・量産化技術が確立された鮭鼻軟骨由来の美容健康成分「プロテオグリカン」です。

あおもりPGブランド認証マーク



課題

- プロテオグリカン「あおもりPG」の販売拡大と県内製造の推進
- 海外におけるプロテオグリカン「あおもりPG」の認知度向上
- 青森発の機能性素材の原材料化と新商品開発

課題を解決・支援する産業創出への取組

プロテオグリカン「あおもりPG」のブランド化と販路拡大支援により、県内企業の一層の外貨獲得を推進する。また、化粧品等の県内製造を推進するとともに、青森りんごの機能性を生かした新市場育成を進める。

- 「あおもりPG」販路拡大等の支援 ● 「あおもりPG」台湾プロモーションの実施
- 「あおもりPG」越境EC・WEB商談マッチングの支援
- お土産として選ばれるインバウンド向け「あおもりPG」商品PR強化支援
- コスメティック青森の支援 ● 青森りんごで健康美人!機能性新市場育成